

準備

広大無辺な世界

そっちじゃない、こっちだ
見ろ、それも、これも
次はあれだ

次第に無意味となる五感

視覚を通じてのみ得られるもの
そこへ取り込まれるだけの外界
現実、非現実という区分の無意味

分断され、往還のない私

生きている場所が2つある
それぞれにおいて純化されてゆく
既に、無関係な2人となっている

何故、1人目の生が必要なのか

それは未だ明言されていない
恐らくそれは
移転が完成されていないことを意味する

いつまでこうなのか

それは彼奴だけが知っている
周到に練られた計画が準備されている
その最中なのだ

既に子供たちは

生まれたときから馴化され
何の抵抗も無く受け入れている
自分の生を半分、手渡すことを

“ 肉体など何の意味があるのか
不潔で、生臭い、そんな肉体など
それを維持するために苦しむなど
一体何の意味があるのか “

答えあぐねる我々が居る

彼奴は囁く

「我思う、故に、我在り」
「産めよ、殖やせよ」と

依存のための依存
それを維持するための
果てしの無い再生産
それを制止する者はいない

(2009.2.8)